

## 入選

### 知らないだれかのために

千葉県 法典東小学校 3年 松本 夏帆

少し前まで、わたしのかみの毛は長かったです。どのくらい長かったかというと、みつあみをしてもせなかの半分より下までありました。

かみの毛が長いと、かわかすのに時間がかかるし、むすぶのがめんどくさいし、毛先がからまないように、トリートメントをつけてかわかさないといけないので、わたしは短い方が好きです。

早く切りたかったので、お母さんに「かみの毛を切りに行かないの。」と言いました。

するとお母さんは、戸だなの中から物さしを出してわたしのかみの毛を計り、「もう少しかな。」と言いました。一ヶ月ぐらいしてもう一度計ると、お母さんは「切りに行こうか。」と言ってくれました。

つれていってくれたのは、いつもとちがう美よう室でした。美ようしさんは、かみの毛の長さをたしかめると、おかっぱになるくらいのところまで12こにわけてゴムでむすびました。そして、ゴムでしばった少し上のところからチョキンチョキンと切っていきます。切ったかみの毛のたばは、一つずついねいにワゴンの上におかれていきました。わたしの頭は、あつというまにおかっぱになりました。

「太くていいかみの毛だね。がんばってのばしたね。」

とほめてくれたのでうれしくなりました。

わたしのかみの毛は、「ヘアドネーション」として、びょう気でかみの毛が生えなかったり、ガンのちりょうでぬけてしまった子たちのウィッグになります。一つのウィッグを作るのに40人くらいのかみの毛がひつようだそうです。しかも今回、40センチメートルも切ったのに、おかっぱの長さにしかならないそうです。

苦しいちりょうにたえて、がんばってびょう気に勝った子たちが、わたしたちのかみを使って作ったウィッグをつけてえがおになってくれたらとてもうれしいです。

わたしは、せきをゆずったりこまっている人を見たらたすけてあげたいけど、声をかけるゆう気がありません。だから、小さなことだけれど少しずつ自分から、人にやさしくできることとして「ヘアドネーション」を続けようと思っています。いつかこまっている人がいたらすぐに声をかけて手伝える人になりたいです。

帰るときに、

「小学生の間にもう2回くらいヘアドネーションができるかな。」

とたずねたら、美ようしさんが、

「一回にして60センチいじょうをがんばってみたらどうかな。ロングのウィッグが作れるよ。」と言ってくれたので、がんばってみようと思います。

わたしのゆめは、いつか「ヘアドネーション」で作られたウィッグを使っていたよという子に会うことです。もし出会えたら友だちになって、いっしょに遊んだり、お話ししたりしたいです。